

科学研究費助成事業（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	26220102	研究期間	平成26(2014)年度 ～平成30(2018)年度
研究課題名	海洋酸性化の沿岸生物と生態系への影響評価実験	研究代表者 (所属・職) (平成31年3月現在)	野尻 幸宏 (弘前大学・大学院 理工学研究科・教授)

【平成29(2017)年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
○ A-	当初目標に向けて概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、大気中二酸化炭素濃度の上昇に伴う、海洋生物への影響を「種・生態系レベル」で解析することを目指している。室内・屋外施設でオリジナルな機器を駆使した実験が実施され、サンゴ、貝類、魚類などについては進捗が認められるが、その他については、計画の遅れが見られる。さらに、多くの機関が参加しているため、研究者の連携体制がわかりづらく、最終的な成果の情報発信に関して、戦略的な方向性を早急に確立する必要がある。また、成果論文については、先行研究との仕分けが十分でないものが見受けられ、環境物理化学モデル研究の成果についても記載すべきであった。海洋酸性化は人類の直面する喫緊の課題なので、研究の遅れを取り戻し、IPCC (Intergovernmental Panel on Climate Change) 報告書などに掲載されるような成果を上げることが期待したい。

【令和元(2019)年度 検証結果】

検証結果	当初目標に対して、期待どおりの成果があった。
A	海洋酸性化条件を温暖化進行時の現実的なCO ₂ 濃度範囲で設定し、海洋生物への影響を、貝類、サンゴ、魚類のそれぞれ独立に優れた研究成果を得ている。これらの研究成果は研究進捗評価後にも7編以上の論文によって発表されている。一連の研究は先行研究を発展的に継続した研究成果とも捉えられるが、2022年に予定されているIPCCレポートに引用されることが十分に期待できる。